

新潟県

平成 7 年

公民館月報

2月
第 504 号

特集 国際理解と公民館活動



寿和温泉露天風呂

（つば入広瀬駅より約 1 キロ）

えび寿様のごとく笑顔で
語り合い、村民相和する温
泉として名づけられる

温泉プール、ヘルスセン
ターは今春オープン

入広瀬村

（写真・資料提供、入広瀬
村 公民館）

追つて 公民館活動 集会より

館長 八幡 博昭 昭氏
参事 清野 昭五 氏

(2) 教育関係（小中学校海外体験
学習、小学生サマーライクリッピングセミナー、女性の英会話講座、婦人国際交流広場、国際交流ワンパク農園）

などの活動をしている。

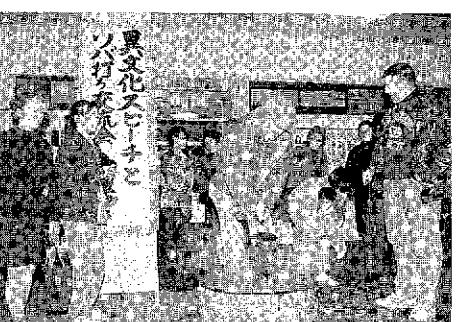
国際化時代を迎へ、今年度の第17回秋田大会より新たに「国際理解と公民館活動」が分科会討議の主題に加えられました。

はじめに

一
町の概要

蒲原平野の北端に位置し、東は日本一小さい檜形山脈、西は日本海に沿って砂丘が連なり、人口二万九千人の町である。

-



シリーズ くらしの課題を 国際理解と ～第17回全国公民館研究～

発表者 中条町公民館

発表者 中条町公民館

んで飲食などをしている。これ
は主に町祭りや運動会などの
終ったあとでの交流である。

主な意見や体験発表

① 外国人の意見

日本人の外国人への接し方で

気になることは「すぐ外国人だ」という表情をする。少し目立つ

せいかと思うが」また、「日本

語うまい」とみんな同じよう

に言うが、言葉の学習が主でな

く、「他の国の立場を勉強する

姿勢の方が大切だということを

言いたい。

「国際交流」はどこでも、だ

れでもできるが、「国際理解」は

むずかしい。

「中国に行つてみて」

中國に行つて日本語を教えて

きたいが、言葉は分からぬが、

「ことばをかけ合う」という温

もらうための町費支出には町民

の理解を得なければならぬの

で、少ない。自己負担なので、

金のない人は来られない。来て

ある。

Q 外国の人との交際で心がけ

ていることは?

A 意識の国際化に心がけ、ま

ず「目をそらさない」「日本語で

言葉かけをする」「日本人は外

国へいつても【挨拶】ができる

い。

B 一
バーティ(日本では、「とい

とか「よばれる」)は、さらりと

したもので、「あるもの」を楽し

かさを感じてきた。中国人は外国人を大切してくれる。「外国人」「外人」と区別したがるが私が中国人に「外人」と呼ばれたのは「入場料」を払うときだけだった。タタミ文化、ニカ文化の違ひのせいか外国人へのサービス過剰もよくない。

日本人は、女性の方が多く学習している。これは外国人には不思議らしい。「日本人の気持ちがなかなか分からぬ」というが、「でも、そうしなければならない」という生活習慣がつづいていることも現実である。

「日本といつてもそれそれに個性や行き方が違うので、古い日本人観念を払拭するように日本側も外国人側もレッテルをはがした交際をしてほしい。」

日本人としての外見

は、住民の中で交流や研修をしている人の体験を発表してもらうのは効果がある。

② 予算を使う主体を公民館とし、在住外国人に対するサービス活動の運営の主体性を関係機関と話し合つて作りあげていく。

③ 沖縄の北山町地区では、嘉手納基地があるので毎日が国際交流と理解の場である。バスの中、婦人、高齢者のふれ合いも自然

体でいい。だから、特別

に交流という意識や行事はなく、エーサまつりやお互いの国

の歌などをテープで聞いたり歌つたりしている。

④ 中条町のように、外国人が日本的生活に対してもつている疑問や要望に、公民館だけでは応えきれないで町政として組織をつくったというものは賢明である。

⑤ ジックリ国際交流を進めたいという地域の考え方も大切だがキチッと始める必要もある。

○ 国際交流はいいかげんにしないで、姉妹提携・親善契約をする意義づけ、そのノウハウや経済的なうづけや研修の方法、ステイの持続ができるような対

公民館としてすること

① 在住外国人に対する国際理解のための事業や啓発に對して、PRをする。予算のないときは、住民の中で交流や研修をしていく。

② 予算を使う主体を公民館とし、在住外国人に対するサービス活動の運営の主体性を関係機関と話し合つて作りあげていく。

③ 沖縄の北山町地区では、嘉手納基地があるので毎日が国際交流と理解の場である。バスの中、婦人、高齢者のふれ合いも自然

体でいい。だから、特別

に交流という意識や行事はなく、エーサまつりやお互いの国

の歌などをテープで聞いたり歌つたりしている。

○ 外国人・日本人というレッテル社会から共存社会へと昇華しないで、心を開くことが必要である。

○ 東京都江東区には八千人の外国人がいる。そのうち30%は中国人であるが、公民館や施設で単発的な交流の会などはもてない。青少年のすなおで華麗な心と姿で、下からの自然の成長と交流の可能性をネットワーク化して、応援するのが自治体の効果的な対応策でないか。

○ 心のかべをとりのぞくこと。これは日本人の心の姿勢に関わることで軽視できない。自治体の一員としての外国人には母子手帳の交付や交際が自然にできるように住民と共に育てる。幼

いながらの交流が大切である。

